

はじめに

兵庫県森林動物研究センター（以下、研究センター）は、ワイルドライフマネジメントに係わる研究成果を、野生動物の保全と管理に関わる業務をおこなっている行政担当者や実務者、技術者、研究者などへ実務に有益な知見を提供することを目的として、平成20年度から「兵庫ワイルドライフモノグラフ」を刊行してまいりました。今回、第10号として「兵庫県の大・中型野生動物の生息状況と農業被害～鳥獣害アンケートと出猟カレンダーの分析～」を刊行いたします。

野生鳥獣を適切に保全管理するためには、県全体の生息状況（分布、生息数、被害実態）を把握するとともに、市町が被害防止計画を立案するために地域の情報が欠かせません。そのため、兵庫県では野生動物の生息状況と農業被害程度を地域単位で明らかにし、また経年変化を追跡するため、約4200ある農業集落を対象とした鳥獣害アンケートを2003年から、約6700人の狩猟者によるシカ・イノシシを対象とした出猟カレンダー調査を1997年度（イノシシは2002年度）から毎年実施してきました。

今回のモノグラフは、これまでの10～20年にわたる長期モニタリングデータの蓄積に基づいております。その結果、鳥獣害アンケートにより2006年度から2016年度までにニホンジカ・イノシシ・ツキノワグマ・アライグマ・ハクビシン・ニホンアナグマの分布が拡大していること、とりわけ外来種であるアライグマとハクビシンの両種が避け合うように排他的に分布を著しく拡大しているなどの興味深い知見が得られています。また、シカ・イノシシの被害程度は密度指標と森林率といった景観構造を組み合わせることによって、良く説明できることがわかりました。すなわち、シカの被害は大規模な森林に接する集落で生じやすいのに対し、イノシシではシカに比較して小規模な森林に接するところで被害が多いことなどがわかり、これらの情報は今後、個体数管理と被害管理の最適な配分を検討するうえで有益です。ニホンジカの分布拡大とともに県全体では被害ありとする集落数は増加し、被害集落の比率も横ばい傾向にある一方で、効果的な対策を講じた集落では被害の減少も見られています。これらの結果は、これまでの全県的な広域スケールでの対策から、今後は地域ごとの細やかな対応策に転換していく必要を示しています。以上の成果は長期モニタリングの蓄積をもとに得られており、モニタリングは野生動物管理を科学的に進めるうえで必須であることを示しています。

最後になりましたが、「兵庫ワイルドライフモノグラフ」は、編集委員会が毎年設定するテーマに沿って執筆された論文等をモノグラフとして編集しております。詳細につきましては、投稿規定をご参照ください。みなさまのご投稿をお待ちしております。

兵庫県森林動物研究センター所長 梶 光一

「兵庫県の大・中型野生動物の生息状況と農業被害

～鳥獣害アンケートと出猟カレンダーの分析～」

目次

1 章	兵庫県の野生動物の生息と被害の動向調査の概要	1
	栗山 武夫・山端 直人・高木 俊	
2 章	兵庫県の野生動物の生息と被害の動向（2006-2016年度）	9
	栗山 武夫・山端 直人・高木 俊	
3 章	景観構造を考慮したシカ・イノシシの農業被害と密度指標の関係分析	32
	高木 俊・栗山 武夫・山端 直人	
4 章	鳥獣害アンケートから見たシカによる農業被害と対策の関係性	46
	山端 直人・栗山 武夫・高木 俊	
附録1	鳥獣害アンケート(2003-2016年度)の項目一覧	56
附録2	鳥獣害アンケートシート(2003-2016年度)	65
附録3	鳥獣害アンケート結果報告パンフレット(2009-2016年度)	88
附録4	出猟カレンダー	108